

道徳科指導案

日時 平成29年5月12日（金）5校時
児童 6年生
授業者
授業場

1 主題名 「思いやりの心」 【B 親切, 思いやり】

2 資料名 「二つのまんじゅう」(『道徳ノンフィクション資料』図書文化 より)

3 本時のねらい

少年が経験した「思いやり」に関する出来事や、少年が行き着いた境地(「自戒の言葉」)について考え、議論することを通して、相手の気持ちを深く推し量り、相手の立場に立った思いやりの心を大切にしようとする心情を育てる。

4 主題設定の理由

(1) 主題・資料

小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 高学年 【A 親切, 思いやり】

『誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にすること』

この段階においては、自他を客観的に捉えることができるようになってくる。そのため、相手の置かれている状況で自分自身に置き換えて想像できるようになる。また、家の周囲や学校といった狭い範囲だけでなく、地域社会における公共の場所など活動範囲がより一層広がり、より多様な人々と接する機会が多くなっていく。指導に当たっては、特に相手の立場に立つことを強調する必要がある。自分自身が相手に対してどのように接し、対処することが相手のためになるのかをよく考えた言動が求められる。また、人間関係の深さの違いや意見の相違などを乗り越え、思いやりの心とそれが伴った親切な行為を、児童が接する全ての人に広げていくことも大切である。そのためには、児童が多様な人々と触れ合い、助け合って何かをするような機会を増やすとともに、それらの体験を生かし、思いやりの心をもつことの大切さについて深く考えられるように工夫する必要がある。

内容項目【B 親切, 思いやり】は、低学年4回、中学年6回、高学年4回の設定となっている(5学年2回、6学年2回の設定)。6年間で14回という他の内容項目と比べ多く設定してあるからこそ、発達の段階や児童の実態を考慮しながら計画的・発展的に指導をしていく必要がある(本時は6学年の1回目にあたる)。

今回扱う資料「二つのまんじゅう」(『道徳ノンフィクション資料』図書文化)は、作者の父親の少年時代の実話である。概略は以下のようにになっている。

- ①少年(作者の父親)は、帰り道、仲良くなった友達から、毎日10個買った飴のうちの2個を分けてもらう。しかし、空腹を満たすはずのその飴が、逆に少年を惨めな気持ちにさせる。
- ②その後、少年は他の友達に饅頭を分ける立場に立つが、2つの饅頭のうちの小さい方を渡す。しかし、一緒に饅頭を食べている間、相手に饅頭の大きさの違いに気付かれていないかどうか気が気でない状況になる。
- ③その時、少年は「物を分けるときは、大きい方を相手にあげることにする」と心に誓う。また、その言葉は少年の生涯を通しての「自戒の言葉」となる。

本資料は少年が「思いやり?(施し)」を受ける立場と、「思いやり?(施し)」を与える立場の2つを通して、自戒の言葉を見出す流れとなっており、「思いやり」という価値を、自分・相手の双方から捉えることができる資料となっている。

(2) 本時で目指す児童・生徒像

「思いやり」とはどういったものなのか、どうあるべきなのかを、資料の中の3つのシチュエーション（飴をあげる（もらう）場面、饅頭をあげる場面、「物をあげる時には、相手に大きい方をあげる」と誓う場面）をもとに、考え、議論することを通して、思いやりある行動を行う側と受ける側双方の立場から「思いやり」を捉え直したり、『相手の心情を押し量る（想像する）』『相手の立場に立つ』『自分自身に置き換える』といった視点で考えたりするなど、「思いやり」という価値そのものや、価値を支える価値観を多面的・多角的に考え、自己の生き方へとつなげていく姿

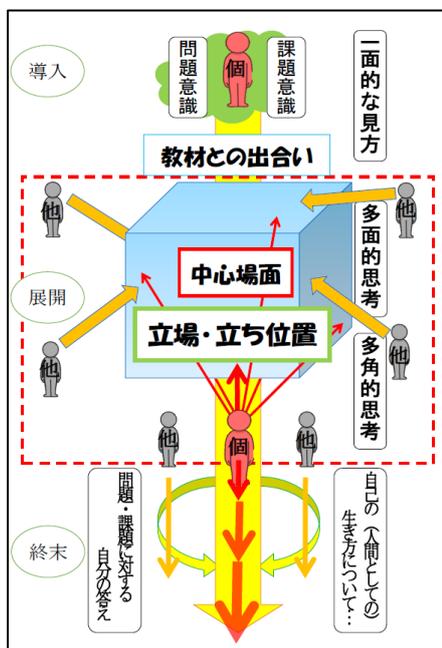
(3) 指導観

以上を踏まえ、本時における「見方・考え方」と「対話的な学び」との関係性を整理し、研究に関わる具体的な手だてを以下に述べていく。

本時における「見方・考え方」と「対話的な学び」との関係性

本時における一面的な見方 ※別紙 資料「事前アンケート結果」参照

これまでの教育活動（12時間実施してきた道徳授業「親切、思いやり」含）や生活経験の中で培われてきた価値観をもとに表出される「思いやり」に関する考え。



一面的な見方を、主に手立てA-①、②で引き出していく。

導入における「空所」「ずれ」「テーマ」等の提示～A-①

年度初めに実施したアンケートの「思いやり」に関する記述の中からキーワードのみを提示する。提示するのは以下の6点である。

『思う、考える』『優しい』『相手』『気遣い、気配り』『助ける』『～してあげる』『ありがとう』

これらのフレーズの中で、「思いやり」という視点で考えた時に違和感を覚えるものや、納得いくものを問うことで、本時で扱うテーマ「思いやり」への方向付けを図るとともに、自分たちのアンケート結果の中でのずれ（過去の自分と今の自分、自分と他者）をもとにテーマへの問題意識の芽生えをねらう。特に「～してあげる」は、議論の柱になるものとして、発問や問い返しとも関連させていく。資料を提示する際は、資料の中から「思いやり」を探すよう伝えることで、読む視点を明確にする。

立場・立ち位置を明確にした発問の吟味～A-②

★発問の流れ（資料範読後）「（資料の中に）『思いやり』はありましたか？」
「飴をあげる行為は『思いやり』と言えますか？」
「饅頭をあげる行為は『思いやり』と言えますか？」
「少年の自戒の言葉は『思いやり』と言えますか？」
「自戒の言葉に込められた『思いやり』に対する考えとは？」

本時においては、常に「思いやり」を視点として、価値そのものをフィルターとして問うこととする。飴をくれる「タカシ」ともらう「少年」、饅頭をあげる「少年」ともらう「ハルオ」、「物を分けるときは、大きい方を相手にあげることにする」という自戒の言葉、それぞれの場面において、それぞれの立場から「思いやり」を考えることで、導入時に発揮された「思いやり」という価値に対する一面的な見方を働かせていくことができるようにする。

「思いやりはありましたか？」の発問からは、子供たちの一面的な見方をもとにした発言等を中心に授業を進めていくため、その後の発問を行わない場合も考えられる。しかし、自戒の言葉に見られる少年の「思いやり」に対する考えについては中心的な発問として必ず講じることとする。物の量や大きさが思いやりに関係しているのか否か、思いやりに必要な条件とは何か、自分が我慢することが思いやりなのか等、その後の対話的な学びにつながるキーとなる発問と捉えている。

本時における目指す多面的・多角的思考

思いやりある行動を行う側と受ける側双方の立場から「思いやり」を捉え直したり、『相手の心情を推し量る（想像する）』『相手の立場に立つ』『自分自身に置き換える』といった視点で考えたりするなど、「思いやり」という価値そのものや、価値を支える価値観の多様性に気付き、その中から「思いやり」に必要なだと考える要素を選択・判断すること。また、自分の判断に納得し、「思いやり」の大切さ・重要性を自覚したり、自分が大切にしていきたい「思いやり」を考えたりすること（納得解）

立場・立ち位置の転換を図る「補助発問」「問い返し」～I

★補助発問「(2つの出来事から)少年は「思いやり」についてどのような答えにたどりついたのですか？」

「思いやりが一番必要なこと（もの）とは何ですか？」

★問い返し：ア、イ、エ、カ、ク、コを中心に児童の発言や記述をもとに講じる。

※教科論参照

少年の自戒の言葉は、飴のエピソードと饅頭のエピソードから生まれたものである。飴をもらう、饅頭をあげるという2つの立場を経験したからこそたどり着いた境地である。それら二つの立場を行き来しながら、俯瞰して（客観的立場から）「思いやり」について考えることができるよう補助発問・問い返しを行うことで（主として）多面的思考を促していく。

また、自戒の言葉を含めた3つのエピソードをもとに、「思いやり」に必要な条件に目を向け、「思いやり」という価値を支える多様な価値観の中から、自分にとって重要だと考えるものを選択・判断できるようにすることで（主として）多角的思考を促していく。

※多面的思考と多角的思考については、大別はできるが、明確に区切ることはできないものであるため、「授業者の意図として」という意で、（主として）という文言を付加し、区別している。

価値の一般化を促す発問～B-①

自己と向き合う時間の工夫～B-②

★発問の流れ「(導入時に提示したフレーズの中で)大切なものありますか？」

「自分が考える「思いやり」とはどのようなものですか？」

「自分が大切にしていきたい「思いやり」とは何ですか？」

★書く時間の設定

導入時のフレーズに戻り、自分が考える「思いやり」について考えることで、高まった見方・考え方（多面的・多角的思考）をもとに、授業全体を振り返ることができるようにする。その後、「何を大切にしたいか」「何を大切にしないか」を問う。「自分が大切にしたいこと、しなければならないこと」を考える時、児童に限らず人は、これまでの自分の経験をもとに、自分に足りない部分（課題）に目を向けたり、理想とする姿を想像したりすることになる。また、「自分にとって」のみならず、「人として」という意識がこの時期の児童の一部には芽生えることも考えられる。「思いやり」という価値を多面的・多角的思考で捉え直すことができた（自覚を深めた or 理解を深めた or 再認識できた等児童によって異なる）上で、この発問を行うことで、「自分」や「人として」といった視点で、自己の生き方についての考えを深めることができるようにする。

また、自己と向き合う時間として書く活動を設定することで、本時における自分の思いや考えを整理することができるようにする。

(4) 本時の展開

学習活動	主な働きかけ・手立て	【評価】 個に応じた指導 (▲)
<p>1 年度初めに回答したアンケート結果から提示された「思いやり」に関するキーワードを見て、納得いくもの、違和感があるものを考える。また、本時のテーマが「思いやり」であることを確認する。</p> <p>・「思う・考える」は大切だね・・・ ・「相手」というのは… ・「気遣い」というのは、思いやりとは違う気がする。 ・「～してあげる」は上の立場からだから違和感がある。</p>	<p>□「思いやり」に関するキーワードを提示し、納得がいくものや、違和感があるものを問う。また、なぜ違和感があるのか、納得がいくのかについても問う。 □本時のテーマが思いやりであることを伝える。 □資料の中から「思いやり」を探そう伝え、読み聞かせする。 A-①</p>	
<p>2 資料の中から見つけた「思いやり」について、本当に「思いやり」と言えるのかについて話し合う。</p> <p>・飴は2個だけだから思いやりとは言えない。 ・少年にとってはありがたい部分も… ・少年が惨めな思いをしている時点で… ・相手が喜んでいないから… ・饅頭は、半分あげているから、大きさは違うけど… ・あげた少年が気がでない状況だから… ・ハルオの境遇を理解して、それであげよう… ・ハルオがどう感じているかどうかが…</p>	<p>□資料の中に「思いやり」があったかを問う。 □大きく3つの場面に区切って「思いやり」と言えるか否かを問う。 □3つの場面に焦点化されない場合は、適宜教師が場面を提示し、「ここにも思いやりがありませんか？」と問う。 □少年の自戒の言葉については、3つの場面の最後に取り扱うよう、話し合いの方向付けを行う。</p>	<p>▲「思いやり」という抽象的なものを見つけたのが難しいと判断した場合、「思いやり」にかかわる場面で一度読み聞かせを止め、一問一答方式で状況確認を行う。</p>
<p>3 少年の自戒の言葉に込められた「思いやり」に対する考えについて自分の考えを整理し、発表交流する。</p> <p>・物を多くあげることが「思いやり」とは言えない。 ・量や数の問題ではない。 ・自分よりも相手のことを大切にすること？ ・相手がどう感じるかが重要 ・「思いやり」に必要なこと… ・本当に相手が喜んでいて、喜ぶか考えること ・相手の気持ちを、相手の立場に立って考えること ・自分が我慢するとかではなく、双方心地よいこと ・自分なら…と想像すること ・状況によって、相手によって、思いやりは変わる…</p>	<p>□少年の自戒の言葉に込められた「思いやり」に対する考えに焦点化し、書く時間を設定する。 A-②</p> <p>○補助発問「2つの出来事から少年は『思いやり』について、どのような考えにたどり着いたのですか？」 ○補助発問『『思いやり』に一番必要なこととは何だと思いますか？』 ○問い返し：㊦、㊧、㊨、㊩、㊪、㊫を状況に応じて講じる。 手立てI</p>	<p>▲自分の考えが整理できない児童に対し、他の児童の発言の中から一番納得いくものを選択するよう促したり、組み合わせるよう伝えたりする。</p> <p>【観察】 ※発言・3人での交流</p>
<p>4 導入時に提示されたフレーズを改めて確認し、大切になるもの考える。また、自分が考える「思いやり」や、大切にしていきたい「思いやり」等について考え、道徳ノートに記述する。</p> <p>・相手のことを考え、自分の気持ちも大切に、優しい心で接すること。 ・相手の立場に立って、相手がどのような気持ちになるのか想像することが大切。 ・自分なら…を考え、相手が喜んでくれるかどうか判断していきたい。 ・相手や状況に応じて行動することが重要になると思う。</p>	<p>□導入時に提示したキーワードを改めて確認し、大切だと考えるものを問う。 □自分が考える「思いやり」とはどのようなものかを問う。また、自分が今後大切にしていきたい、しなければならない「思いやり」とはどのようなものかも問う。 B-① □書く時間を設定する。 B-②</p> <p>□状況に応じて、導入時に提示したフレーズ「～してあげる」を取り上げ、どのような場合、「思いやり」になるのかを問う。 □状況に応じて、記述内容を紹介する。</p>	<p>▲自分の考えが整理できない児童に対し、他の児童の発言の中から一番納得いくものを選択するよう促したり、組み合わせるよう伝えたりする。</p> <p>【発言・道徳ノート】</p>